

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】

A事業② 社会実装ビジネス創出プラットフォーム構築事業

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

昨今の国際情勢を背景として、国内外のサプライチェーン・バリューチェーンは大きく変化しており、県内企業に於いても従来型の販路開拓の方法では新規需要の獲得は困難となっている。その為、オープンイノベーションの手法を主軸として、従来の生産財や食品・農産物の販路開拓の他、地域資源を活用した県内への観光客誘致や先進医療分野の高いハードル等も見据えた県内企業の新規事業の展開を実現する。

加えて、新たな価値創造に向けた実証フィールドを設定する事により、県内企業のみならず、地域住民の抱えている問題・課題（人口減少、高齢者の生活スタイル変化など）を解決するための取り組みとして「安全安心で暮らしの豊かさを実感できる街づくり」に資する社会実装を基本とした地域システムの構築を目的とする。

【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

1. 社会実装ビジネス推進協議会及びWGの設置

(1) 社会実装ビジネス推進協議会の設立

令和6年5月31日に設立総会を開催。県内企業、自治体、国内外の多種多様なノウハウをもつ有識者によって構成。

2. 新生活創造プロジェクトの推進

- (1) (農) 広岡農場を実証フィールドとして農・食・観光資源の活用による「人があつまり、暮らしの豊かさを実感できる空間形成」を目指し、アドバイザーによる視察や実際に運営するレストランを活用した意見交換会を行った。来年度も引き続き、会員やアドバイザー等の関係者を交えて活用方法に関するフィールドワークを行う。

内容	詳細
マヒドン大学関係者招聘時の意見交換会（令和7年2月6日）	地域の食材を活用したコース料理をいただきながら意見交換会を行った。タイの方にも好評の内容であった。
推進協議会アドバイザーによる視察（令和7年3月12日）	アドバイザー2名と当機構理事長にて視察を実施。今後の活用方法について継続して検討を行う。

表1. 広岡農場の活用検討内容

(2) 安心安全な移動サービス及び物流サービスの社会システム設計・構築の検討

① パーソナルモビリティを活用した安心安全な移動サービス

岐阜大学高等研究院航空宇宙生産技術開発センターは航空宇宙産業の抜本的な生産性向上のための研究開発を行っている。当機構理事長が5月にセンターを訪れた際に、周囲の作業者、障害物を認識し、経路を判断し自走する自律型搬送ロボット（以下、AMR）の紹介を受け、当機構が目指す安心安全な移動サービスとの親和性が高いことが期待されることから当事業では岐阜大学との連携を新たに追加することとした（変更申請鳥産第20240197号）。

令和6年8月1日から2日にかけて、AMRの研究を行っている岐阜大学教授と学生の方を招聘し、AMRの仕組みから実際にAMRを用いた機構建物内の自走実験を行った。その際に、AMRは機構が所有する吉林大学との連携により自動運転機能を付加したeモビリティ（以下、AMI）と同じロジックで走行ルートを判断していることが判明し、今回の招聘ではAMIとの連携の可能性がより具体的になったと共に、AMR単独での移動サービス

の検討も期待できるように感じた。7年度以降は実際に広岡農場を市街地に見立てた実証実験を実施していく。

なお、当初予定していた吉林大学とのAMIを用いた実証実験は先方都合により来日が急遽キャンセルになったため、次年度に延期となった。

②ドローンを活用した物流サービス

5年度に実施した米国訪問時に繋がりが出来たスタートアップ企業と連携し、広岡農場を実証フィールドとした実験を検討した。実際にドローンの飛行実験を行うにあたり、国が定める規定等について知見のあるアドバイザーに相談したところ、当初想定していた当機構と広岡農場間の飛行実験はJRの線路や国道を通過する必要があるため、実施が難しいこと等の課題が浮き彫りとなった。来日も視野に入れて調整していた米国スタートアップ企業の担当者が退職されたこと等を理由にドローンを活用した物流サービスについては本年度で検討を終えることとする。

(3) 「暮らしの豊かさを実感できる空間」形成について

日本国内において女性の活躍が課題となっている中で、本県の女性企業家と女性活躍先進地域であるタイの女性企業家との交流によるビジネスチャンス機会の創出を目的に、在京タイ大使館に協力を仰ぎ、ビジネスマッチングの検討を行った。令和7年3月12日に推進協議会メンバーであるブリリアントアソシエイツ(株)と当機構国際ビジネスセンターのCDが大使館を訪問し翌日からのFOODEX JAPAN 2025（東京ビッグサイト開催）に出展するタイの企業との交流会に出席。翌日のFOODEXの視察を含めて8社程度と面談し、内、1社と今後もマッチング検討を継続していく。なお、今後は事業内容を絞って確実な事業成果を求めるため、当マッチングは国際ビジネスセンターの実施事業に踏襲していく。

併せて、近年、介護及び環境分野の市場が急速に発展しているタイ工業省とのビジネス交流を検討するため、7月にタイ工業省を訪問した。その際に産業振興局長（現、経済事務局 事務局長）と協議を行う中で健康食品のスーパーフードで注目を浴びているカカオ豆の加工の話題になった。世界的生産量に対する割合は少ないものの、近年はタイ産カカオ豆を加工する技術も向上。国内で板チョコレートまで仕上げるクラフトチョコレートブランドがいくつかあるが、品質を保ったままの量産にはまだまだ課題を抱えていることから、食品の品質保持技術を有する県内企業とのマッチングの検討を行っていく（変更申請鳥産第20240197号）。

3. マヒドン大学医療ロボティクスセンターとのビジネスマッチング

医工連携で先行するタイ国立マヒドン大学医療ロボティクスセンターとの技術支援交流・連携を強化し、県内企業のメディカルヘルスケアなどの機器開発促進を目指す中で本年度は当機構職員によるマヒドン大学への視察及び、マヒドン大学関係者による県内企業視察等を実施した。

(1) マヒドン大学視察

令和6年7月8日～10日にかけてタイを訪問し、最終日にマヒドン大学医学部ラマティボディー病院及び医療ロボティクスセンターの視察を行った。大学でスタートアップ支援も行っておられる副学部長は当事業の取り組みに強い関心を持たれて、鳥取県への訪問も希望されていることから、マヒドン大学医学部やそのスタートアップ企業と県内企業の共同開発等が期待できた。当機構理事長より医工連携でマッチング出来そうな県内企業を紹介した。医療ロボティクスセンター視察の際も元工学部長でロボティクスセンター創設に携わられた准教授からも鳥取県を訪問し、県内企業との連携について前向きな反応があった。

(2) マヒドン大学関係者招聘

令和7年2月5日から8日にかけてマヒドン大学関係者を招聘し、当機構にて今後の連携に関する協議、県内企業視察を実施した。訪問先は以下のとおり。マヒドン大学関

係者は鳥取県内企業との連携に強い関心を持ち、今後、具体的な連携につながりそうな企業を3社（表2の1～3）発掘することが出来たため、今後も検討を継続していく。

NO.	マッチング進捗状況
1	マヒドン大学側よりタイのハビリテーション・エンジニアリングの催し（2025年11月24・25日開催）に当社のトレーニングマシーンの展示の打診があったため、出展に向けた検討中。併せてマヒドン大学医学部でのマシーン活用を検討中。
2	連携可能性の検討に向けて秘密保持契約の締結準備中
3	マヒドン大学医学部で当社が表面処理を施したステンレス製パレットの実証実験実施中（光反射・眩しさ、殺菌性、耐久性等）。
4	マヒドン大学医学部での当社製の歯科用切削器を活用した実験の可能性あり。

表2. マヒドン大学と県内企業のマッチング進捗状況

4. NTTリサーチ&UCバークレーとのスタートアップ発掘事業

（1）カリフォルニア大学バークレー校と連携したスタートアップ企業の発掘の検討

UCバークレー講師であり当大学発の世界最高峰のスタートアップアクセラレーターであるBerkeley Skydeck教員メンター（推進協議会アドバイザー）に協力を仰ぎ、スタートアップ発掘について、まずは当事業と関係の深そうな産学官の協業による起業に関する講演を開催（オープンイノベーションキャンプ内での講演）。併せてジェトロのウェビナー等を活用し、海外スタートアップとの連携に関する情報収集を行った。今後のスタートアップとの連携を検討する中で、具体的に連携する分野を絞る必要があると考え、国内でも需要が高まりつつあるAIデータセンターの要素技術の構築をテーマに検討することとし、可能性調査としてSBIR鳥取フォーラム内で米国AIデータセンターに関する基調講演及び推進協議会メンバーの県内企業との意見交換を実施した。今後はAIデータセンター要素技術に関して県内企業と連携の可能性のあるスタートアップとの発掘を実施していく。

（2）デジタルツイン技術を有するNTTリサーチとの連携調査

NTTリサーチが有するバイオデジタルツインとスマートホスピタルの実現を目指す鳥取大学医学部との自動医療分野に於ける連携可能性を探るために調査を行った。

令和7年3月13日にNTTリサーチ代表とサンフランシスコベイエリアの実状に詳しいジェトロサンフランシスコ事務所長（2名とも推進協議会アドバイザー）を招き、とっとりバイオフィロンティアにて関係者協議を実施した。鳥取大学関係者も交えて意見交換を行い、まずは五味氏、林氏からシリコンバレーにおけるバイオテックの最新情報の提供をいただいた。この度の協議では具体的な連携に関する議論には至らなかったが推進協議会ワーキンググループメンバーからも研究者間での交流の重要性について意見が挙がったことから、今後も引き続き先進バイオビジネスの創出に向けた連携可能性について調査を実施していく。

5. オープンイノベーションキャンプの定期開催

スタートアップエコシステムの先進地である米シリコンバレーの実状に詳しい有識者を招聘し、推進協議会会員を中心とした県内企業に対してスタート

アップ企業等とのオープンイノベーションによる連携の重要性について学ぶ機会の提供を目的に定期的開催する。第1回目として令和7年5月31日に基調講演を開催した。内容については先述のとおり当事業と関係の深そうな産学官の協業による起業に関する講演会を開催し、まずは先進地のアメリカでどのようなスタートアップの起業が存在するのか情報提供をいただいた。併せて、AIデータセンターの要素技術の構築をテーマに今後スタートアップの発掘を予定していることから、令和7年3月12日に「SBIR鳥取フォーラム」と題し、アメリカでのAIデータセンターに関する最新情報（現地のデータセンターの実状、データセンター運営に必要な事項等）、データセンターの電力需要解消の一手となるであろうNTTのIOWN技術等に関する基調講演を行った。併せてシリコンバレー界限でどのような分野

の技術が注目を集めているのか、スタートアップエコシステムの最新情報等も踏まえて林氏にもご講演頂いた。聴講した推進協議会企業とは活発な意見交換が行われ、AI活用やデータセンターへの関心が高いことがうかがえた。全体を通してアメリカの新分野に取り組むスピードは日本よりはるかに早く、アメリカのスタートアップ企業と連携を通して県内企業の刺激となるような取り組みを行っていく必要があると考える。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

1. 社会実装ビジネス推進協議会及びWGの設置

県内各分野を代表する企業経営者や多種多様なノウハウを持つ国内外の有識者をメンバーに加えた推進協議会の立ち上げを行うことができた。

2. 新生活創造プロジェクトの推進

- ・ 広岡農場を実証フィールドとした農・食・観光資源の活用による「人があつまり、暮らしの豊かさを実感できる空間形成」に関する調査について今年度海外（タイ）の方にも好感触であったため、活用の幅が広がるように感じた。
- ・ 吉林大学の来日が急遽キャンセルになったことから、AMIを活用した実証実験は延期となったが、安心安全な移動サービスでの活用が期待できるAMRの研究を行っている岐阜大学のメンバーとの関係を築くことができた。
- ・ タイ女性企業家とのビジネスマッチングについては1社と少ないものの、県内企業のパートナー候補の発掘を行うことが出来た。
- ・ タイ工業省とのビジネス交流については具体的な連携テーマについて協議を行うことができた。

3. マヒドン大学医療ロボティクスセンターとのビジネスマッチング

具体的にマヒドン大学と連携可能性のある県内企業3社を発掘することが出来た。マヒドン大学関係者の県内企業、特にものづくり企業への関心が高く、今後も連携が期待できる県内企業は増えていく見込みである。

4. NTTリサーチ&UCパークレーとのスタートアップ発掘事業

具体的なスタートアップ企業の発掘までには至らなかったが、推進協議会アドバイザー等からスタートアップの先進地であるシリコンバレーや、今後の連携テーマとなるAIデータセンターに関する最新情報を入手することが出来た。SBIR鳥取フォーラムの開催内容も踏まえて推進協議会企業のAIデータセンターやその周辺技術等への関心が高いことが分かった。

5. オープンイノベーションキャンプの定期開催

年1回の予定であったが、スタートアップ発掘事業での連携テーマであるAIデータセンターに関する基調講演及び意見交換の必要性を感じたことからSBIR鳥取フォーラムと名前を変えてオープンイノベーションキャンプと併せて2回開催することができた。特にSBIR鳥取フォーラムでは推進協議会会員企業とアドバイザーで活発な意見交換を行うことができ、より知見を深めることができた。

【今後の進め方〈波及効果を含めて〉をどうするのか】

1. 社会実装ビジネス推進協議会及びWGの設置

メンバーである県内企業の連携による新規需要開拓を目指し、今後も定期的な推進協議会開催による意見交換、実証実験等を行っていく。また、大企業のメンバーや学術機関を会員に追加してメンバーの拡充を図っていく。

2. 新生活創造プロジェクトの推進

農・食・観光資源の活用による「人があつまり、暮らしの豊かさを実感できる空間形成」については、広岡農場を実証フィールドとして県内企業連携による地域資源活用等による周

辺地域の活性化を図る。

安心安全な移動サービスについては、最終的に広岡農場を市街地に見立てた実証実験を目指す。その際に、自動運転等に対して関心の高い県内企業は会員を問わず参加を募り、社会課題であるラストワンマイル提供にむけた新サービスの開発等のヒントに繋がるような仕掛け作りを行っていく。

3. マヒドン大学医療ロボティクスセンターとのビジネスマッチング

マヒドン大学との連携メンバーは県内企業への関心の高さがうかがえることから、今後も連携候補先起業の発掘を進めていく。当事業を通して県内企業の新分野進出の機会の提供を目指す。

4. NTTリサーチ&UCパークレーとのスタートアップ発掘事業

AIデータセンターの要素技術にテーマを絞り県内企業とマッチングの可能性があるスタートアップ企業の発掘を目指していく。併せてNTTリサーチとの連携によるバイオビジネスの創出に向けた調査を継続していく。オープンイノベーション手法を用いた連携を目指し、最終的には県内企業、国内外の学術機関、大企業を巻き込んだプラットフォームの構築を目指す。

5. オープンイノベーションキャンプの定期開催

多種多様な分野の県内企業が参画し、スタートアップ企業との連携の重要性や将来的に参入可能性のある新分野の最新動向等に関する情報を提供し、高度専門コミュニティの形成を目指す。